

(2) 保存地区のあゆみ

平成20年度(2008)	旧鯉坂正一郎邸の保存運動が住民等から起こる
平成21年度(2009)	住民・NPO・大学による旧鯉坂正一郎邸の応急修理 旧鯉坂医院が登録有形文化財となる
平成22年度(2010)	住民から市に、旧鯉坂家住宅の保存について要望が出される
平成23年度(2011)	鯉島(健志)家住宅・鯉島博家住宅が登録有形文化財となる
平成24年度(2012)	旧鯉坂正一郎邸を市が取得 町並み保存団体「かせだ歴史まちなみ懇話会」発足
～25年度(2013)	南さつま市加世田地区伝統的建造物群保存対策調査(26年3月報告書刊行)
平成25年度(2013)	旧鯉坂家住宅(旧鯉坂正一郎邸)が国登録有形文化財となる
平成26年度(2014)	懇話会から発展し、かせだ歴史まちづくり協議会発足
平成27年度(2015)	かせだ歴史まちづくり協議会を中心に「加世田麓まち歩き」が始まる
平成29年度(2017)	南さつま市伝統的建造物群保存地区保存条例施行
令和元年 (2019)	国選定官報告示「重要伝統的建造物群保存地区」となる



旧鯉坂家住宅の屋外・屋内意匠(赤壁・床・欄間) (国登録有形文化財)

(3) 保存地区の保存と整備

保存地区は、江戸期から昭和期までの建築が重層的に見られ、市街地化の影響を受けながらも、武家門やイヌマキの生垣・石垣で区画された屋敷構え、自然地形に沿った馬場・小路、さらに益山用水・井がわなど、独特の歴史的風致を今に伝えている。

これらの風土を守り伝えてきた保存地区の住民、技術者・職人に、広く市民、NPO、各分野の学識経験者などが協力して、保存地区の伝統的建造物群及びこれらと一体をなす環境を「生きている町並み博物館」として保全に努める。



加世田麓の町並み

(4) 保存地区の活用とまちづくり

加世田麓と周辺地域との連携により、文化資源を活かした歴史まちづくりに努める。

市民・関係団体と行政とが協働して、市民ぐるみで「生きている町並み博物館」の永続的な保存と歴史風土に根差したまちづくりに取り組む。



益山用水と生垣

(5) 住民等の取組

保存活用団体による麓まち歩きなど「生きている町並み博物館」魅力発信



加世田麓まち歩き